豊見城市（とみぐすく）

保存版【東地区】

防災マップ

災害にそなえる

非常時緊急連絡先

〈豊見城市役所〉098-850-0024（代表）　〈消　防〉（局番なし）119

※災害及び災害の前兆現象を確認した場合の連絡先

〈警　察〉（局番なし）110　〈沖縄電力〉（停電・緊急時）

豊見城警察署　098-850-0110　那覇支店　0120-586-701

わが家の指定緊急避難場所

地震時	津波・高潮時	洪水等水害時	土砂災害時

※災害によって危険箇所は異なります。これらを避けた避難経路・避難場所を家族で話し合いましょう。

平成31年 3月

地震・津波

～地　震～ 事前の対策

日本は世界有数の地震国であり、これまで何度も地震に襲われ、大きな被害を受けてきました。沖縄も決して例外ではありません。地震は突然発生するので、日頃の対策が大切です。

①家具の固定
天井側だけではなく床の側もストッパーなどで固定をして、上下に分かれている家具類は連結しておきましょう。

②家具の配置
寝室や出入り口付近で家具を固定できない場合には、家具が倒れてもドアが開くような位置・向きにする。

③飛散防止
窓ガラスに飛散防止フィルムを貼る。窓はもちろん、食器棚や額縁などに使われているガラスにも忘れずに。

④スリッパ等の準備
窓ガラスや食器の破片は、あなたの行く手をはばむ。地震発生時は、裸足で歩ける状態ではありません。スリッパやスニーカーなど、履きなれた靴でいつでも使用できるように準備しておきましょう。

～地　震～ 発生後の行動

地震発生の瞬間は適切な判断が難しいものです。自分の命を守ることを最優先に次の10項目を参考に落ち着いて行動しましょう。

1. 落ち着いて身の安全を確保する
2. あわてず冷静に出火を防ぐ
3. 窓や戸を開け出口を確保する
4. 停電後の通電火災を防ぐ
5. 慌てて外に飛び出さない
6. 避難は徒歩で持物は最小限に
7. 狭い路地、塀ぎわ、川べりは要注意
8. 山崩れ、崖崩れ、津波に注意
9. 正しい情報、正しい行動
10. 避難は早めに。協力しながら…

～津　波～ 発生後の行動

海に囲まれている沖縄は、過去に大きな津波に襲われた記録があります。津波には様々なタイプのものがあり、揺れが小さな地震や遠くで起こった地震、火山の噴火等でも引き起こることから津波警報等を確認したら速やかに避難しましょう。

1 避難は自ら判断を
災害が迫ったとき、置かれた状況は1人ひとり違います。それぞれが判断し、適切な行動を取らねばなりません。正しい情報を入手し安全な場所に避難してください。

2 避難に車を使わない
基本的に車で避難するのはやめましょう。2011年の東日本大震災では車で避難した人が多かったために渋滞してしまい、その結果逃げ遅れて津波に襲われ、命を落としてしまった人が多数いました。

3 「遠く」よりも「高く」に
津波が起こる可能性がある場合は、直ちに高台の方へ避難してください。近くに高台がない場合は、頑丈な鉄筋の高層建物へ避難してください。

4 津波は繰り返し襲ってくる
津波は、第1波のみとは限りません。第2波、第3波と繰り返し襲ってくる場合があります。津波注意報、津波警報が解除されるまでは、海岸や河川、低地帯には近づかないでください。

平常時から確認しておくこと

非常時持ち出し品チェック

	ラジオ		常備薬		食料・水		現金		預金通帳		（　　）
	電池（多めに用意）		救急箱		着替え		印章		免許証		（　　）
	携帯バッテリー		ポータブルトイレ		懐中電灯		健康保険証		権利証書		（　　）
	（　　）		（　　）		（　　）		（　　）		（　　）		（　　）

※家族で必要なものを確認してカッコを埋めましょう。例：哺乳ビン、眼鏡、毛布など

いつ起こるか分からない自然災害に備えて！ 豊見城市防災情報メールシステム

メールシステムへ登録された方のみ以下の情報が送信されます。

①国民保護（大規模テロ、航空攻撃、弾道ミサイル、ゲリラ）
②緊急地震速報（推定震度4～7）
③地震情報（震度速報4～7、震源震度に関する情報）
④津波情報（大津波警報、津波警報、津波注意報）
⑤気象情報 警報
⑥気象情報 土砂災害警戒情報
⑦気象情報 記録的短時間大雨情報
⑧防災無線放送情報

市民の皆さまも災害等に備え、メールシステムに登録しましょう！

①下記メールアドレスへ空メールを送る。
メールアドレス→tomigusuku-regist@jam2.oshirase-plus.jp
②仮登録確認メール　仮登録メールが折り返し送られてきます。
※迷惑メール対策を行っている場合は［@jam2.oshirase-plus.jp］を迷惑メールから除外してください。
③本登録する　メール本文中のURLをクリックしていただきますとページが開きます。
(1) 配信言語(日本語、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語)を選択します。
(2) 行政情報(市)等(希望する)にした場合は、災害情報以外の各種情報も送信されます。
(3) 確認(confirm)ボタンを押します。
④登録情報の確認画面が表示されます。
登録情報を確認していただき、「登録ボタン」を押してください。
⑤登録ボタンを押していただくと、登録は完了となります。
※メールを解除する場合は下記メールアドレスに空メールを送信してください。
メールアドレス→tomigusuku-remove@jam2.oshirase-plus.jp

メールアドレスQRコード

防災放送聞き直しダイヤル：0120-456-322　市より発信された喫緊の放送をフリーダイヤルで確認できます。

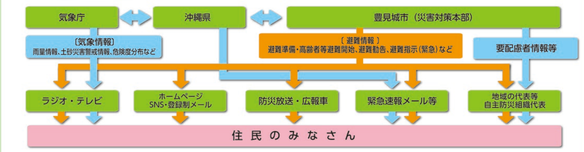
災害用伝言ダイヤルとは？　NTTでは、災害発生時に、被災地への通話がつながりにくい状況の場合、被災地内の安否などの情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置します。

伝言の録音	171→1→被災し～た方の～電話番号	（自宅の電話番号、または連絡を取りたい方の電話番号）	伝言保存期間	録音してから 48 時間
伝言の再生	171→2→被災し～た方の～電話番号		伝言蓄積数	1電話番号あたり10伝言まで
伝言内容(時間)	1伝言あたり 30 秒以内		利用可能電話	～般電話(プッシュ回線、ダイヤル回線)、ISDN、ひかり電話、公衆電話、携帯電話(～部除く)等

地域の防災情報は「FMとよみ83.2MHz」

災害時の情報伝達ルート

●気象の異常に対して、下図の伝達ルートでみなさんへお知らせします。



情報がなくても、異常気象（雷雨や異常な降雨）を感じたときには、避難の準備が必要です。危険を感じたときには速やかに避難しましょう。

洪水・土砂災害

～洪 水～

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

外水氾濫　大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。

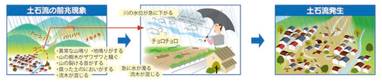
内水氾濫　その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。

～土砂災害～

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気づいた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難しましょう。
また、日ごろから危険箇所や避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。

がけ崩れ
地中にしみこんだ水分が土の摩擦力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家のほぐで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。

土石流
山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり
斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によって傾くりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、ごくゆっくりと一定の速度で半歩分ずつ動くことから、逃げ切ることは非常に困難です。

※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

洪水・土砂災害での避難の仕方

歩ける深さに気をつける！
歩ける深さは平均50cm。水がひざまで来たら動き始め、高い所で救助を待ちましょう！

ロープでつながる！
はぐれないように赤い身体をロープで結んで運搬しましょう！また、太腿下には筋肉が凝えやすい、長い棒を足がわに安全確認をして下さい。

履き物に注意！
裸足、長靴は禁物です。ひもでしめられた運動靴が良いでしょう。

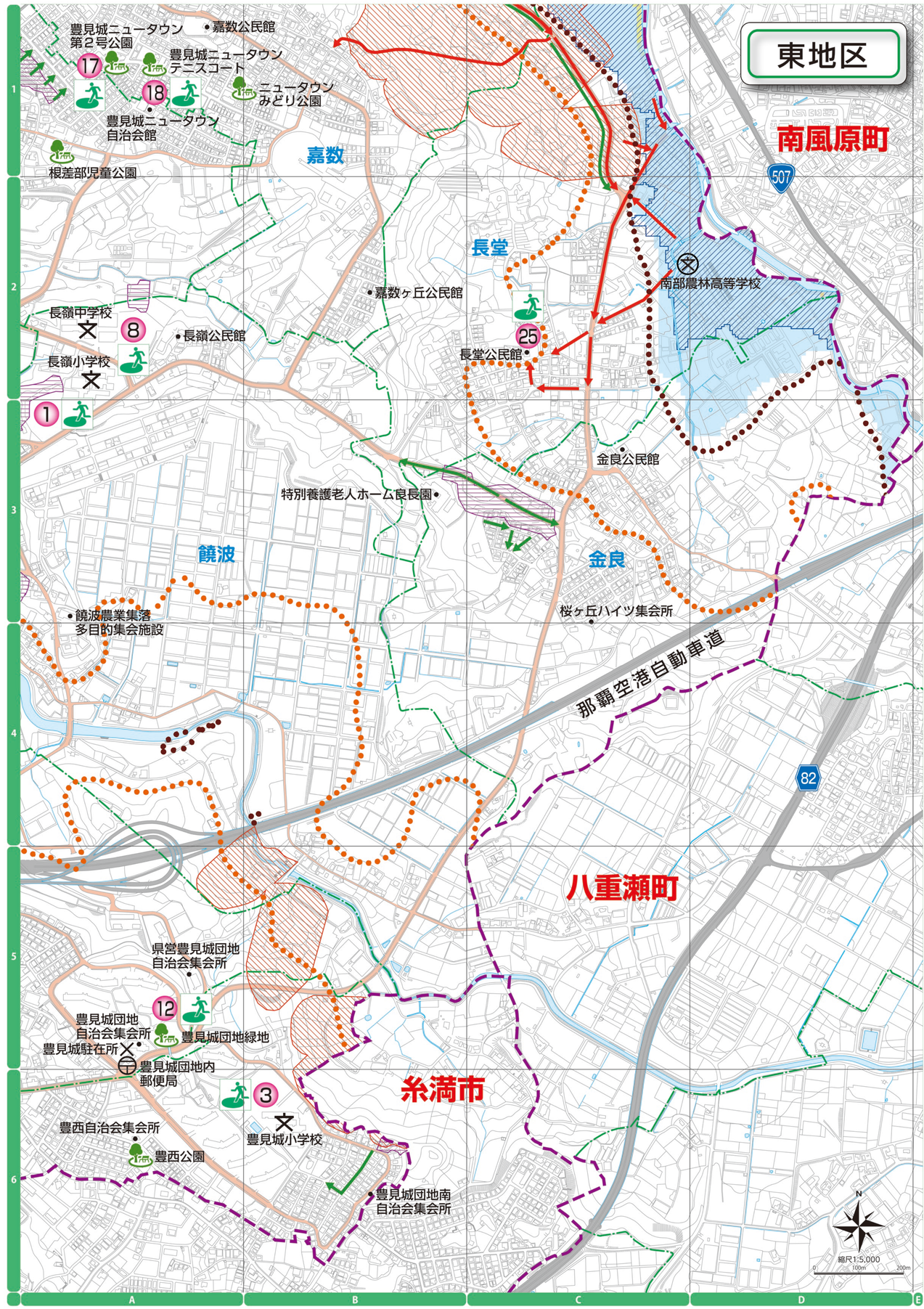
もしも、土石流に遭遇したら

逃げ方に注意しましょう！
土石流は流れるスピードが速いため、流れを背にして逃げたのでは追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向に対して、直角に逃げる等、逃げ方に注意しましょう。

避難行動要支援者のために

《 高齢者や病気の方など 》
お年寄りや子ども、病気の方などは、早めの避難が必要です。高いすの方の場合、階段では必ず3人以上で！昇る時は、前向きに、降りる時は後ろ向きにします。

《 目の不自由な方 》
はっきり、ゆっくり大きな声で話しかけましょう。誘導する場合は、ひじを軽く持ってもらいゆっくりした速度で半歩前を歩きましょう。

《 耳の不自由な方 》
話す時はまっすぐ顔を向け、口をゆっくりはっきり動かしましょう。手話、筆談、身ぶりなどの方法で正確に情報を伝えましょう。

《 外国人の方 》
通訳をできる方がいない場合は、分かりやすい日本語やピクトグラム等の絵を使うなど避難方が必要であることを伝えましょう。